

水の大切さを知って

福島県会津若松市立二等学校

三年

菊地

紗奈

ある日、私は衝撃を受けました。それは、
「きれいな水を手に入れることが難しい国が
ある」ことを知ったからです。他にも、一日
本の水源が外国人に買われているというこ
とも知りました。今まで水のことを考えたこ
とがありませんでした。しかし、学校で水に
ついて調べたら、驚きの事実の連続でした。
世界には毎日、遠くの水たまりまで歩いて

2

行き、水を汲んで家まで帰る事を何度も繰り
返すため、学校に通うことができない子供達
がいました。また、不潔な水を飲むことで病
気にかかり、長く生きられない人達がいるこ
と、このように苦勞して日常を送っている人
々がいることを知り、ショックを受けました。
それは、私の学校が会津若松市の滝沢浄水
場の隣にあることと無関係ではありません。
水道から出てくる透明な水はここから送られ
てきます。何の疑いもなく手を洗い、時には

ごくごくと飲んでのどを潤します。日本では水道からきれいな水が出てきて当然、そして絶対安全だと信じているからです。

ところが今年の一月、石川県と北陸・信越を襲った、能登半島地震が起きました。そして四カ月経った今でも、一部の地域では断水が続いているという事をニュースで知りました。人間は「水」を飲まずに生きられるのはたった数日、四～五日だということです。人間の体はその七十パーセント以上が「水」で

いわれており、水はまさに命そのものだというのに四カ月も水に不自由な暮らしを余儀なくされている地域が日本にもあるのです。私は、とても悲しいことだと思いました。

けれども、その能登半島地震では会津若松市の水道局の方々と給水車が派遣され、給水車は二・ハトンの水を収容し、給水袋二千二百袋分を用意して珠洲市の避難所などで水を提供したというニュースもありました。そう、私の学校の隣の浄水場の水。私が毎日、安心

して使っている水です。私は誇らしく、うれしく思いました。そしてその中であつた、困っている方に一日でも早く命の水を配つて、率直して生活が送れるようにと思つています。

という職員の方のコメントが私の胸にささりました。

いつも水道から水が出てくることをあたりまえに思つていました。が、身近な場所でも働く人達が困っている遠くの町へ行つて「命の水」を配つたということを知つてから、この「水」を守るために必のくらしいの方々が関わつているのか、この「命の水」がどれほど大切なのか、ということも痛感し、ありがたさという気持ちを持ちが込み上げてきました。

しかし、このように学ぶことができて、自分で必のようなことをすれば人々を救ふことが出来るのか、自分から行動するということ、とは簡単ではありません。でも、「水」を必のように使用すれば無駄なく生活することが

ク
できるのか、自分達で考えて、行動すること
は私たちにもできます。今からでも遅くはあ
りません。

私はい、この事を家族にも話してみました。
するこ、お風呂で水を使いすぎていないか、
こ父が言いました。それなら私にもできそう
だと思いました。早速シャワーは必要な時以
外は止めるようにし、シャワー以外にも止め
ることを意識して節水を心がけたら、水道代
をおさえることができ、私は節水してよかつ

ク
たと思いました。

このように一人でも多くの人が節水を心が
けることによつて、水を手に入れることが難
しい人々にも水を届けることができます。す
るこ世界の人が水を使うことができず。つ
自分もできる行動しを取る人が増えて、今よ
り暮らしやすい環境をつくれたらいいと思ひ
ます。まずは私が、その一人になりたいと思
います。